

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
作業療法概論Ⅰ	作業療法科／1年	2021／後期	講義(一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択
90分	15回	1単位(30時間)	必須

### 授業の概要

作業療法領域全体を概説する。作業療法がどのような人たちに対し、どのようなことを目的として、どのような手段を用いて介入するのか、作業療法の専門性や役割、専門職としての作業療法士についての概要を学ぶ。作業療法を学ぶまでの出発点として位置付けられる科目である。また、MTDLPをとおして評価から統合と解釈、治療までの作業療法の流れを理解する。【実務経験】病院勤務

### 授業終了時の到達目標

- ・作業療法の基本的な考え方、枠組み、役割を理解し、説明ができる。
- ・作業療法の対象者と活動領域を理解し、説明ができる。

回	テーマ	内 容	
1	総論	作業療法の歴史・定義・法律・倫理	
2	国際生活機能分類からとらえる健康	ICF 多職種連携	
3	作業療法の理論①	6つの理論 生体力学モデル	
4	作業療法の理論②	作業科学 人間作業モデル	
5	身体障害分野の作業療法①	身体障害作業療法概論	
6	身体障害分野の作業療法②	身体障害作業療法 対象 脳血管・運動器	
7	精神障害領域の作業療法①	精神障害とは	
8	精神障害領域の作業療法②	精神障害領域の作業療法概論	
9	高次脳機能障害の作業療法	高次脳機能障害とは	
10	発達障害領域の作業療法①	肢体不自由児 脳性麻痺、先天性股関節脱臼、筋ジス	
11	発達障害領域の作業療法②	発達障害、定義、教育的リハ、就労支援	
12	高齢期領域の作業療法①	高齢期とは	
13	地域作業療法	通所リハ、地域包括センター、障害者総合支援法	
14	MTDLP①		
15	MTDLP②		
教科書・教材	評価基準	評価率	その他
長崎重信 作業療法学概論 改訂第2版 メディカルビュー社	期末試験	100.0%	総論5、身体障害25、精神障害20、高齢期20、発達障害15、地域15

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
作業療法概論 II		作業療法科／2年	2021／前期	講義(一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位 (30時間)	必須	梶(実務経験有)

#### 授 業 の 概 要

- ・理論には、関連用語があるため、用語を含めた理論背景を学ぶ
- ・理論の適応範囲や対象を知る
- ・理論を 5W1Hで理解する

#### 授業終了時の到達目標

理論を学び、実践で活用できるように理解することにより、作業療法実践の質の向上につなげる。

回	テ　ー　マ	内　容
1	総論	作業療法のモデル
2	人間作業モデル	概論
3	人間作業モデル	事例
4	COPM	検査方法 検査体験
5	カナダ作業モデル DVD:コレス骨折	グループ発表①
6	川モデル DVD:認知症	グループ発表②
7	CI療法	グループ発表③
8	認知行動療法	グループ発表④
9	認知機能リハ	グループ発表⑤
10	生体力学モデル	グループ発表⑥
11	その他の理論	グループ発表⑦⑧
12	その他の理論	グループ発表⑨⑩
13	MTDLP	事例①
14	MTDLP	事例②
15	MTDLP	事例③
教科書・教材		評価基準
小川真寛ら編集 作業療法理論の教科書 メジカルビュー		期末試験 発表 ワークシート
		評価率 80.0% 10.0% 10.0%
その他		

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 态
基礎作業学 I ( 作業分析 )	作業療法科 / 1 年	2021 / 後期	演習 ( 一部同時双方向型遠隔授業 )
授 業 時 間	回 数	単 位 数 ( 時 間 数 )	必 須 ・ 選 択
90 分	15 回	1 单位 ( 30 時間 )	必 須

#### 授 業 の 概 要

作業を手段として用いる作業療法にとって、作業の適切な利用が求められる。作業がどのような治療的意味を持つのか、どのように治療的に用いられるのか、その特性等について知ることは作業療法を実施する上で重要である。また、治療的手段として用いられる作業種目を多く知ることは、その選択の幅を広げる。

本講義では実際に作業を体験し、作業工程や作業の持つ特性について理解を深めていくことを主題とする。【実務経験】病院勤務

#### 授 業 終了時の到達目標

- ・作業・作業活動の意味について理解を深める。
- ・治療的手段としての作業を身体的（運動学的）・精神的側面から学び理解する。
- ・作業に必要な用具や材料および作業工程を理解できる。
- ・基本的な作業活動の工程分析の視点を学び理解する。
- ・作業を行う上での注意事項について理解できる。

回	テ ー マ	内 容
1	オリエンテーション	作業の定義、分類、治療的意味等
2		作業分析の概要
3		包括的作業分析
4		
5	作業活動 1	墨線描きの動作分析
6	作業活動 2	墨線描きの動作分析
7	作業活動 3	革細工（スタンピング）
8	作業活動 4	革細工（スタンピング）
9	作業活動 5	革細工（スタンピング）
10	作業活動 6	革細工（スタンピング）
11	作業活動 7	陶芸
12	作業活動 8	陶芸
13	作業活動 9	陶芸
14	作業活動 10	陶芸
15	作業活動 11	

教科書・教材	評価基準	評価率	その他の評価基準
・つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル 第2版：古川 宏監修、医歯薬出版、2012	課題・レポート	100.0%	実技中心の科目です。動きやすく、汚れても良い服装で臨んでください。

作成者：

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎作業学Ⅱ(技術・演習)	作業療法科／2年	2021／前期	講義・演習 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択
90分	15回	1単位(30時間)	必須

## 授業の概要

作業療法士には、作業の適切な利用が求められる。

手段や目的として用いる作業を多角的な視点から分析し、対象者により適した作業療法を実施できるよう、体験やグループワークを通して作業・作業療法の視点からの思考力を鍛える。

【実務経験】病院勤務

## 授業終了時の到達目標

- ・体験を通して作業の意味について考え、作業分析し、対象者にとっての作業の意味について考えることができる。
- ・作業に必要な道具や材料、作業工程、注意事項について説明できる。
- ・対象者に合った作業選択や段階付けについて考えることができる。

回	テーマ	内 容
1	作業分析概論①	作業とは何か
2	作業分析概論②	作業を分析する 包括的作業分析と限定的作業分析
3	作業の段階付けと指導法	段階付けの視点と発想
4	包括的作業分析①	ちぎり絵
5	包括的作業分析②	ちぎり絵
6	包括的作業分析③	ちぎり絵
7	包括的作業分析④	ちぎり絵
8	限定的作業分析①	作業と運動生理機能
9	限定的作業分析②	作業と心理
10	作業と手順	トップダウンアプローチとボトムアップアプローチ
11	作業療法士に求められる能力	事例を通して考える
12	作業提供①	計画と実践
13	作業提供②	計画と実践
14	個人と集団の分析	特徴と効果
15	作業分析のまとめ	作業をどのように用いるか
教科書・教材		評価基準
古川宏：作業活動実習マニュアル、第2版、医歯薬出版		課題・レポート
濱口豊太：基礎作業学、第3版、医学書院		100.0%
その他		

作成者：丁子 雄希

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
研究方法論 I (抄読)	作業療法科／2年	2021／後期	講義 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択
90分	15回	1単位 (30時間)	必須

## 授業の概要

科学的根拠に基づいて意思決定を行うために、客観的な立場から批判的にデータを読み解く視点を習得する。

【実務経験】病院勤務

## 授業終了時の到達目標

- ・クリティカルリーディングの視点を理解する。
- ・質的研究、量的研究、混合研究の違いを理解できる。
- ・EBMを理解できる。

回	テーマ	内 容
1	文献検索の仕方、文献レビュー	
2	エビデンスの分類	
3	診断の指標	
4	研究倫理	
5	質的研究	M-GTA
6	質的研究	内容分析
7	質的研究	KJ法
8	混合研究、質的研究	テキストマイニング
9	文献抄読	
10	文献抄読	
11	事例研究	症例報告
12	事例研究	事例研究
13	量的研究	
14	量的研究	
15	量的研究	

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
山本澄子：すぐできるリハビリテーション統計（第2版）。南江堂、2019 丁子雄希：作業療法士のための超実践シングルケースデザイン。金芳堂、2020	課題・レポート	100.0%	

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
作業療法管理学Ⅰ	作業療法科／2年	2021／後期	講義 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択
90分	15回	1単位(30時間)	必須
授業の概要			
作業療法士における職業倫理や職場における管理業務等について学ぶ【実務経験】病院勤務			
授業終了時の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業倫理を身につけることができる。倫理観を持って病院実習に臨む基本ができるようになる</li> <li>・ハラスメントや守秘義務・個人情報管理の理解、コミュニケーションスキルを身につける</li> <li>・職場管理業務を学び、診療の流れや記録、備品管理等の業務理解ができる。</li> </ul>			
回	テーマ	内容	
1	オリエンテーション	作業療法管理学とは	
2	常識とマナー	医療現場での常識やマナーについて学ぶ	
3	医療機関の安全管理	医療現場での安全管理について学ぶ(健康チェックやリスク管理)	
4	守秘義務	医療現場での守秘義務について	
5	個人情報	医療機関での個人情報の管理について	
6	情報管理	医療機関での情報の管理について	
7	記録と報告	医療現場での記録及び報告について(電子カルテなど)	
8	倫理とハラスメント	医療場面での倫理やハラスメントについて	
9	コミュニケーションスキル	職場でのコミュニケーションスキルについて	
10	多職種連携	多職種連携とは	
11	クリニカルクラークシップ	診療参加型臨床実習について	
12	クリニカルリーズニング	クリニカルリーズニングとは	
13	MTDLPとは	生活行為向上マネジメントについて	
14	ストレスチェック	職場でのストレスチェックについて	
15	職場管理	医療現場での管理業務とは	
教科書・教材	評価基準	評価率	その他
・OT臨地実習ルートマップ: メジカルビュー社(齋藤佑樹・菊池恵美子著) ・作業療法学ゴールドマスターテキスト 作業療法学概論(改訂第2版): メジカルビュー社(長崎重信・里村恵子)	期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
作業療法評価学概論 I		作業療法科／1年	2021／後期	演習(一部同時双方向型遠隔授業)
90分	15回	1単位（30時間）	必須	白瀬雅登 (実務経験あり)

作業療法とは、どのように実践していくのかを知り、治療に結びつく評価の仕方を学ぶ。  
【実務】病院勤務

#### 授業終了時の到達目標

作業療法評価の概念を理解し、実践に結びつく知識を身に着ける

回	テ　ー　マ	内　容
1	総論	作業療法評価とは
2	各論①	ICF
3	各論②	ICF
4	各論③	ICF
5	各論④	作業療法の流れ
6	各論⑤	作業療法の流れ
7	各論⑥	観察と面接
8	各論⑦	観察の仕方
9	各論⑧	面接の仕方
10	各論⑨	MTDLP
11	各論⑩	MTDLP
12	各論⑪	MTDLP
13	各論⑫	MTDLP
14	各論⑬	MTDLP
15	各論⑭	MTDLP
教科書・教材		評価基準
・能登真一他：標準作業療法学 作業療法評価学 第3版、医学書院		期末試験
		100.0%
その他		

作成者:

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
身体機能評価学Ⅰ	作業療法科／2年	2021／前期	講義(一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択
90分	30回	2単位(60時間)	必須

## 授業の概要

作業療法評価学概論Ⅰ・Ⅱを受けて、身体障害分野における評価方法を学ぶ。

## 【実務経験】病院勤務

## 授業終了時の到達目標

- ・疾患別の評価方法を列挙できる。
- ・関節可動域測定、筋力検査を正確に実施できる。

回	テーマ	内 容
1	身体機能評価法概論	
2	脳血管障害の評価1	脳血管障害の評価方法概論
3	脳血管障害の評価2	各種検査法
4	頭部外傷の評価	
5	脊髄損傷の評価1	脊髄損傷の評価方法概論
6	脊髄損傷の評価2	各種検査法
7	末梢神経の評価	
8	関節リウマチ・全身性エリトマトーデス・多発性筋炎の評価	
9	神経疾患の評価	ギランバレー、パーキンソン病、ALSなど
10	内部疾患の評価	心臓機能障害、呼吸器機能障害、悪性腫瘍
11	関節可動域測定1	上肢
12	関節可動域測定2	上肢
13	関節可動域測定3	上肢
14	関節可動域測定4	上肢
15	関節可動域測定5	手指

回	テ　ー　マ	内　　容		
16	関節可動域測定 6	手指		
17	関節可動域測定 7	体幹・下肢		
18	関節可動域測定 8	体幹・下肢		
19	関節可動域測定 9	体幹・下肢		
20	関節可動域測定 10	体幹・下肢		
21	筋力測定 1	上肢		
22	筋力測定 2	上肢		
23	筋力測定 3	上肢		
24	筋力測定 4	上肢		
25	筋力測定 5	手指		
26	筋力測定 6	手指		
27	筋力測定 7	体幹・下肢		
28	筋力測定 8	体幹・下肢		
29	筋力測定 9	体幹・下肢		
30	筋力測定 10	体幹・下肢		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
能登真一ら(編集) : 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院		実習・実技評価	100.0%	OSCEをもとに実技試験を行います。

作成者:

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
身体機能評価学Ⅱ	作業療法科／2年	2021／後期	演習 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択
90分	30回	2単位(60時間)	必須

## 授業の概要

各種疾患に対する身体機能の評価を、講義や実技を通して学ぶ。特に、評価項目の選択・実施を中心にお授業を展開していく。【実務経験】病院勤務

## 授業終了時の到達目標

各種疾患に対して、適切な評価を選択できる。また、その評価を選んだ理由を説明することができる。  
模擬患者に対して、説明を行い、同意を得たうえで、適切に評価を実施することができる。

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション、面接	
2	脳血管障害（1）	各種評価の確認
3	脳血管障害（2）	各種評価の確認
4	脳血管障害（3）	症例検討
5	脳血管障害（4）	症例検討
6	脳血管障害（5）	症例検討
7	脊髄損傷（1）	各種評価の確認
8	脊髄損傷（2）	各種評価の確認
9	脊髄損傷（3）	症例検討
10	脊髄損傷（4）	症例検討
11	Parkinson病（1）	各種評価の確認
12	Parkinson病（2）	各種評価の確認
13	Parkinson病（3）	症例検討
14	Parkinson病（4）	症例検討
15	下肢の骨折（大腿骨頸部骨折）（1）	各種評価の確認

回	テ　ー　マ	内　容		
16	下肢の骨折（大腿骨頸部骨折）（2）	各種評価の確認		
17	下肢の骨折（大腿骨頸部骨折）（3）	症例検討		
18	下肢の骨折（大腿骨頸部骨折）（4）	症例検討		
19	脊椎の骨折（腰椎圧迫骨折）（1）	各種評価の確認		
20	脊椎の骨折（腰椎圧迫骨折）（2）	各種評価の確認		
21	脊椎の骨折（腰椎圧迫骨折）（3）	症例検討		
22	脊椎の骨折（腰椎圧迫骨折）（4）	症例検討		
23	上肢の末梢神経損傷（1）	各種評価の確認		
24	上肢の末梢神経損傷（2）	各種評価の確認		
25	上肢の末梢神経損傷（3）	症例検討		
26	上肢の末梢神経損傷（4）	症例検討		
27	関節リウマチ（1）	各種評価の確認		
28	関節リウマチ（2）	各種評価の確認		
29	関節リウマチ（3）	症例検討		
30	関節リウマチ（4）	症例検討		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
能登真一ら（編集）：標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院		期末試験	100.0%	実習の際は、動きやすい服装で参加してください。

作成者:

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
精神機能評価学	作業療法科／2年	2021／後期	講義(一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択
90分	30回	2単位 (60時間)	必須
授業の概要			
・精神医療および作業療法の歴史と流れを理解し、精神障害者に対する作業療法の理念や基本的な視点・知識・態度を学習する。 ・精神科作業療法における評価の目的や意義を理解し、評価技術の習得や地域生活に向けた臨床思考過程を学ぶ。 <b>【実務経験】病院勤務</b>			
授業終了時の到達目標			
1. 精神医療と精神科作業療法の歴史や現状を理解する。 2. 精神科における評価の流れを理解し、様々な評価法の意義および特徴や目的を理解し、説明することができる。 3. 観察・面接・各種評価法を理解し、実施できる。 4. 個人情報にも留意しながら、評価した結果を適切に記録として残すことができる。			
回	テーマ	内容	
1	精神障害領域の作業療法概論	作業療法の対象、作業とこころの関係	
2	精神科作業療法の特徴	作業療法士の役割	
3	精神医療の歴史		
4	精神科領域の基礎理論・関連療法	精神分析学、認知行動療法、来談者中心療法、生活技能訓練 (SST) など	
5	評価の流れ①	評価の特性	
6	評価の流れ②	評価の視点と一連の流れ	
7	情報収集	情報収集の目的と方法	
8	記録と個人情報	記録方法と個人情報の取り扱い	
9	自己理解	対象者に与える療法士の影響	
10	集団と場①	ひとと作業と集団の関係、集団の力	
11	集団と場②	集団の評価	
12	観察法	基本的な観察の視点	
13	面接法	面接の意義や方法・形態	
14	面接・観察（演習）①	情報収集面接	
15	面接・観察（演習）②	ISDA, SMSF	

回	テ　ー　マ	内　　容		
16	面接・観察（演習）③	ISDA, SMSF		
17	対象者とのコミュニケーション	バーバル・ノンバーバル 傾聴と共感		
18	作業面接①	構成的作業・投影的作業を用いた面接の概要		
19	作業面接②（演習）	箱作り法		
20	様々な評価尺度と使い方	精神症状・社会機能の評価		
21	地域・復職支援における評価①	地域生活支援		
22	地域・復職支援における評価②	復職支援		
23	地域・復職支援における評価③	様々な評価尺度		
24	地域・復職支援における評価④	実践例		
25	評価のまとめ①	全体像の把握		
26	評価のまとめ②	統合と解釈		
27	目標設定	目標設定の視点と治療への展開		
28	作業療法の実際①	統合失調症例		
29	作業療法の実際②	統合失調症例		
30	行動制限	隔離・身体拘束		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・作業療法ゴールドマスター・テキスト 精神障害作業療法学 改定第3版. ・ICF国際生活機能分類 国際障害分類改訂版.		期末試験 期末試験 実習・実技評価 課題・レポート	50.0% 10.0% 30.0% 10.0%	・精神医学や心理学で学習した内容も深く関連します。 ・ペアでの演習やグループワークも

作成者:

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
高次脳機能評価学	作業療法科／2年	2021／前期	講義(一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択
90分	15回	1単位(30時間)	必須 担当教員 梶直美 (実務経験あり)

## 授業の概要

高次脳機能の評価方法を身に着ける【実務経験】病院勤務

## 授業終了時の到達目標

高次脳機能の評価の目的と方法を理解し、患者にあった評価を選択できるようにする

回	テーマ	内 容
1	高次脳機能障害復習	DVDで復習
2	検査法	高次脳機能スクリーニング検査
3	検査法	TMT-A, B
4	検査法	かな拾いテスト
5	検査法	三宅式記銘力検査
6	検査法	レイの複雑図形
7	検査法	BIT
8	検査法	BADS
9	検査法	FAB
10	検査法	MMSE
11	検査法	HDS-R
12	検査法	コース立方体
13	検査法	リバーミード行動記憶検査
14	検査法	その他
15	検査法	その他

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
能登真一ら編集 作業療法評価学第3版 医学書院	実習・実技評価	40.0%	
川平和美編集 神経内科学第5版 医学書院	期末試験	60.0%	
本田哲三編集 高次脳機能障害のリハビリテーション第3版 医学書院			

作成者：中川等史

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授業形態
発達機能評価学	作業療法科／2年	2021／前期	講義・演習（一部同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回 数	単位数 (時間数)	必 須・選 択
90分	8回	1単位 (15時間)	必 須

## 授業の概要

子どもの障害特性を理解し、対象となる疾患や障害に対するの作業療法評価を概説し、病態、評価についての講義を行う。基本的な評価手法を紹介し、主要な評価については演習を通して学習する。

【実務経験】病院勤務

## 授業終了時の到達目標

- ・面接を行ううえでの留意点を説明できる。
- ・発達を評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できる。
- ・感覚統合の発達モデルについて説明できる。
- ・行動を評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できる。

回	テ　マ	内　容
1	発達過程作業療法における家族との面接と情報収集・発達検査	面接技術や情報集項目、発達検査の種類について
2	発達全般を評価する検査・運動機能評価	各種検査の内容、マイルストーン、脳性麻痺児の評価・検査表について
3	感覚統合機能の評価・視知覚、視覚認知の評価	感覚統合にかかる検査、視知覚発達検査、視覚認知評価について
4	知能・認知機能の評価、行動評価	知能検査各種、行動評価にかかる検査各種
5	作業遂行・身辺自立の評価	ADL評価表各種、AMPS、ESI
6	検査実習 1	知能検査実習
7	検査実習 2	視知覚検査、SM式検査
8	検査実習 3	JMAP

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
能登真一他編：標準作業療法学 作業療法評価学	期末試験 実習・実技評価	70.0% 30.0%	

作成者:

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
高齢期評価学	作業療法科／2年	2021／後期	講義 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択
90分	15回	1単位 (30時間)	必須

## 授業の概要

講義や実技を通して、高齢期障害の特徴や各種評価の特性を学ぶ。また、症例検討を通して、患者に応じた評価の選択を練習していく。【実務経験】病院勤務

## 授業終了時の到達目標

高齢期障害の特徴を理解したうえで、適切に評価項目を選択できる。また、その評価を選択した理由を説明できる。

回	テーマ	内容
1	高齢期障害とは	高齢期の健康状態、生理・心理的特徴、廃用症候群、体力、活動能力、意欲
2	評価すべき項目	
3	認知・知的機能評価（1）	HDS-R、MMSE
4	認知・知的機能評価（2）	国立精研式認知症スクリーニングテスト、柄澤式老人知能の臨床的判定基準
5	認知・知的機能評価（3）	GBSスケール、N式老年者用精神状態尺度（NMスケール）
6	認知・知的機能評価（4）	日本語版MoCA（MoCA-J）、MOSES、FAST
7	認知症者の行動・心理症状（BPSD）に関する評価（1）	BPSDとは
8	認知症者の行動・心理症状（BPSD）に関する評価（2）	認知症行動障害尺度（DBD）、日本語版NPI-Q、アルツハイマー病行動病理学尺度
9	障害高齢者の日常生活自立度判定基準、認知症高齢者の日常生活判定基準	
10	老年うつ病スケール	
11	地域包括ケアシステムにおける認知症アセスメントシート、介護度	
12	アセスメント	
13	症例検討会（1）	
14	症例検討会（2）	
15	症例検討会（3）	

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
能登真一ら（編集）：標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院	期末試験	100.0%	

科 目 名		学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 态
義肢学		作業療法科 / 2年	2021 / 後期	講義（演習も含む） (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位 (30時間)	必須	長谷川 (実務経験あり)

#### 授 業 の 概 要

本講義では、切断と義肢について基礎理論から適合技術、日常生活の指導に至るまで教授する。

【実務経験】製作所勤務

#### 授業終了時の到達目標

切断に対応した義肢が選択できる。

義肢を生活上で使用するまでの注意点を理解することができる。

回	テ 一 マ	内 容
1	概要	切断と義肢の歴史
2	切断術	術式
3	大腿義足①	大腿義足の名称、ソケット
4	大腿義足②	膝継手、足継手
5	大腿義足③	チェックアウト
6	大腿義足④	適応基準
7	下腿義足①	下腿義足の名称、ソケット
8	下腿義足②	足継手
9	下腿義足③	チェックアウト
10	下腿義足④	適応基準
11	股義足①	股義足の名称、ソケット
12	股義足②	チェックアウト
13	サイム～足部義足	チェックアウト
14	術直後義肢装着法	チェックアウト
15	まとめ	復習

教科書・教材	評価基準	評価率	その他の評価
『義肢装具学』千住秀明 監修 神陵文庫	期末試験	100.0%	
『下肢切断の理学療法』細田多穂 編著 医歯薬出版			
『義肢学』澤村誠志 編 医歯薬出版			

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
装具学	作業療法科／2年	2021／前期	講義 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択

90分	15回	1単位(30時間)	必須	中川(実務経験有)
-----	-----	-----------	----	-----------

## 授業の概要

装具の定義、目的、原理などについて学んだ後、構成する部品、装具の種類、適合判定について学習する。【実務経験】病院勤務

## 授業終了時の到達目標

- ・装具の分類、機能、目的について述べることができる。
- ・疾患や対象者に合った装具を選定できる。

回	テーマ	内容
1	装具学総論	装具の目的、機能、対象疾患、分類 3点固定の原理 装具作成の流れ
2	下肢装具の構成部品とチェックアウト	下肢装具の代表的な構成部品の名称と機能特徴 基本的なチェックアウトについて
3	足継手の制御機構	足継手の種類と機構 足継手による足部関節の制限・制御メカニズム
4	脳卒中片麻痺の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて
5	対麻痺の装具	装具の名称と残存機能レベルに応じた適応について 装具の機能と特徴について
6	整形外科的装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて
7	頸椎疾患・胸腰椎疾患の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて
8	末梢神経障害の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて
9	脊椎側弯症の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて
10	小児疾患の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて
11	関節リウマチの装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて
12	靴型装具 車椅子・杖	靴型装具の基本構造と機能特徴とメカニズムについて 車椅子・杖の種類と特徴 各部位の名称について
13	スプリント作製①	作業療法士が作製するスプリントについて
14	スプリント作製②	カックアップスプリント
15	スプリント作製③	短対立スプリント

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
「PT/OTビジュアルテキスト 義肢装具学 第1版」高田治実 監修 羊土社	期末試験	100.0%	

作成者：

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
日常生活活動 I (総論)	作業療法科／2年	2021／前期	講義(一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択
90分	15回	1単位(30時間)	必須

## 授業の概要

講義や実技練習を通して、日常生活活動の概念と種類、基本動作から身辺動作、日常生活活動の特徴を理解する。また、各動作・活動の補助・誘導及び評価・治療計画の立案を学習する。【実務経験】病院勤務

## 授業終了時の到達目標

日常生活活動の概念と種類、基本動作から身辺動作、日常生活活動の特徴をふまえたうえで、各動作・活動の補助・誘導及び評価・治療計画の立案ができるようになる。

回	テーマ	内 容
1	日常生活活動の概念と種類(1)	
2	日常生活活動の概念と種類(2)	
3	基本動作(1)	寝返り、起き上がり
4	基本動作(2)	立ち上がり
5	基本動作(3)	移乗
6	基本動作(4)	移動
7	身辺動作(1)	食事
8	身辺動作(2)	整容
9	身辺動作(3)	更衣
10	身辺動作(4)	排泄
11	身辺動作(5)	入浴
12	日常生活関連動作(1)	炊事、洗濯
13	日常生活関連動作(2)	掃除、家屋管理
14	日常生活関連動作(3)	買い物、公共交通機関の利用
15	日常生活活動とリズム、社会参加	

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
藤井浩美ほか：クリニカル作業療法シリーズ 日常生活活動の作業療法、中央法規出版株式会社、2014 濱口豊太：標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第3版、医学書院、2017	期末試験	100.0%	実技の際は、アクセサリー類は外し、動きやすく服装で臨んでください。

作成者：						
科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態			
日常生活活動Ⅱ（各論）	作業療法科／2年	2020／前期	講義 (一部、同時双方型遠隔授業)			
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択			
90分	15回	1単位（30時間）	必須			
授業の概要						
様々な障害を持つ人々に対する生活技術の支援方法等について学習します 【実務経験】病院勤務						
授業終了時の到達目標						
1. 日常生活活動における正常動作とその工程を理解・説明できる。 2. 日常生活活動における各動作を評価できる。 3. 日常生活活動障害について理解・説明できる。 4. 自助具について、その概要を理解し説明・発表することができる。 5. 作業療法の対象となりやすい代表的な疾患・障害と日常生活活動障害の関連性を理解、説明できる。						
回	テ　ー　マ	内　容				
1	日常生活動作概論	日常生活活動Ⅰの振り返り ADL動作とは（科目的概要）				
2	基本動作・工程分析	臥位、坐位、立位、起居動作				
3	ADL動作・工程分析	食事				
4	ADL動作・工程分析	整容				
5	ADL動作・工程分析	更衣				
6	ADL動作・工程分析	入浴・トイレ				
7	ADL動作・工程分析	コミュニケーション 移乗・移動				
8	IADL動作・工程分析	外出、買い物、通勤通学 洗濯、掃除				
9	IADL動作・工程分析	調理 統合と解釈				
10	自助具	概要				
11	自助具	フィールドワーク 発表				
12	疾患別ADL	脳血管障害				
13	疾患別ADL	脊髄損傷				
14	疾患別ADL	運動器疾患 高齢期				
15	疾患別ADL	神経筋疾患 その他				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他		
【教科書】 ・クリニカル作業療法シリーズ 日常生活活動の作業療法 第1版：藤井浩美ら（編）、中央法規、2014		課題・レポート	100.0%			
【参考書】 ・作業療法ゴートマスター・キット 日常生活活動学（ADL）：木之瀬隆（編）、メガルビュ社、2016						

作成者：

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
作業療法治療学 I -1 (身障) 3年	作業療法科／3年	2021／前期	講義 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択
90分	30回	2単位(60時間)	必須

## 授業の概要

身体障害に対する作業療法について、各疾患別に評価・訓練について教授する。また模擬患者を通して評価から治療の一連の流れについて理解する。

【実務経験】病院勤務

## 授業終了時の到達目標

各疾患に対するリスクをふまえた上で、作業療法の評価から治療の一連の流れが理解できる。

疾患に応じた適切な評価方法が立案できる。

各評価結果からICFにまとめることができる

回	テーマ	内容
1	身体障害に対する基本的知識 ①	概論、身体障害の作業療法のプロセス
2	身体障害に対する基本的知識 ②	作業遂行アプローチ
3	身体障害に対する基本的知識 ③	運動学習
4	身体障害に対する基本的知識 ④	知覚再学習
5	身体障害に対する基本的知識 ⑤	関節可動域・筋力へのアプローチ
6	脳血管障害に対する作業療法①	疾患概要
7	脳血管障害に対する作業療法②	作業療法評価1
8	脳血管障害に対する作業療法③	作業療法評価2
9	脳血管障害に対する作業療法④	作業療法プログラム
10	脳血管障害に対する作業療法⑤	模擬患者との介入演習
11	脳血管障害に対する作業療法⑥	模擬患者との介入演習発表とフィードバック
12	脊髄損傷に対する作業療法①	疾患概要
13	脊髄損傷に対する作業療法②	作業療法評価1
14	脊髄損傷に対する作業療法③	作業療法評価2
15	脊髄損傷に対する作業療法④	作業療法プログラム

回	テ　ー　マ	内　容		
16	脊髄損傷に対する作業療法⑤	模擬患者との介入演習		
17	脊髄損傷に対する作業療法⑥	模擬患者との介入演習発表とフィードバック		
18	骨折に対する作業療法①	疾患概要（大腿骨頸部骨折、橈骨遠位端骨折、腰椎椎体骨折、上腕骨近位端骨折）		
19	骨折に対する作業療法②	作業療法評価		
20	骨折に対する作業療法③	作業療法プログラム		
21	骨折に対する作業療法④	模擬患者との介入演習		
22	変形性関節症に対する作業療法①	疾患概要（RA・変形性関節症）		
23	変形性関節症に対する作業療法②	作業療法評価		
24	変形性関節症に対する作業療法③	作業療法プログラム		
25	変形性関節症に対する作業療法④	模擬患者との介入演習		
26	末梢神経損傷・切断に対する作業療法①	疾患概要		
27	末梢神経損傷・切断に対する作業療法②	作業療法評価		
28	末梢神経損傷・切断に対する作業療法③	作業療法プログラム		
29	熱傷に対する作業療法①	疾患概要		
30	熱傷に対する作業療法②	作業療法評価・作業療法プログラム		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
山口昇、玉垣努：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学（第3版）、医学書院、2005		課題・レポート 実習・実技評価	70.0% 30.0%	

作成者:

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
作業療法治療学Ⅰ-2(身障) 3年	作業療法科／3年	2021／前期	講義(一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択
90分	15回	1単位(30時間)	必須

## 授業の概要

講義・症例検討を通じて、神経変性疾患、内部障害、循環器障害、悪性新生物に対する基礎知識の定着を図り、適切な評価、医学的根拠に基づく治療法を理解する。

## 授業終了時の到達目標

- 各疾患における作業療法実施時のリスクを説明できる。
- ICFを用いて、各疾患における作業療法の治療方針までの考え方を説明できる。
- 各疾患における作業療法の治療に関する知識を説明できる。
- 各疾患における作業療法の治療変化に対応できる考え方を説明できる。
- 作業療法の治療方針についてチームで討論することができる。

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	身体機能作業療法の目的と方法
2	作業療法評価 情報の種類	
3	リスク管理	
4	作業療法の病気と役割	
5	呼吸器疾患	呼吸器の解剖と生理、呼吸器疾患(閉塞性肺疾患・拘束性肺疾患)について
6	呼吸器疾患	呼吸器の臨床評価
7	呼吸器疾患	包括的呼吸器リハビリテーションプログラム。 ケーススタディ
8	糖尿病	糖尿病の病態と合併症
9	糖尿病	糖尿病の評価、作業療法プログラム
10	悪性腫瘍(がん)	悪性腫瘍(がん)の概要と分類、評価と治療
11	パーキンソン病	パーキンソン病の概要と評価
12	パーキンソン病	パーキンソン病の目標とプログラム
13	脊髄小脳変性症	脊髄小脳変性症の概要と評価、目標とプログラム
14	筋萎縮性側索硬化症	筋萎縮性側索硬化症 概要と評価
15	筋萎縮性側索硬化症	目標とプログラム

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
標準作業療法 標準作業療法 第2版 身体障害作業療法学2 内部疾患編 第1版 神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ 改訂第2版	課題・レポート 期末試験	30.0% 70.0%	課題・レポートと 期末試験の合算で 60%に満たない学生 は再試験の対象と なります。

作成者：

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
作業療法治療学Ⅱ-1（精神） 3年	作業療法科／3年	2021／前期	講義 (一部、双向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択
90分	30回	2単位（60時間）	必須

## 授業の概要

1. 非構成的評価の仕方・記録法について学ぶ
  2. 精神科領域における作業療法（治療法）について学ぶ
- 【実務経験】病院勤務

## 授業終了時の到達目標

1. 非構成的評価による評価結果を4条件に沿って吟味したり記述することができる。
2. 治療構造や治療的な関わり方を理解する。
3. 治療や援助の場について理解する。
4. 各疾患に応じた作業療法介入を理解する。

回	テ　ー　マ	内　容
1	治療学概論	精神障害者に対する作業療法の視点
2	構成的評価と非構成的評価	なぜ非構成的評価なのか
3	4条件メソッドとは何か①	条件 1・2
4	4条件メソッドとは何か②	条件 3・4
5	4条件吟味法①	演習問題
6	4条件吟味法②	演習問題
7	4条件記述法①	演習問題
8	4条件記述法②	演習問題
9	4条件記述法③	演習問題
10	精神科領域の作業療法の実際	作業療法リースニング
11	治療学概論①	治療構造、治療的態度・関わり方
12	治療学概論②	作業活動、集団の活用 状態別アプローチ
13	治療・援助の場	精神科作業療法、外来作業療法 デイケア、精神療養病棟など
14	統合失調症①	疾患の特徴と回復過程
15	統合失調症②	作業療法介入

回	テ　ー　マ	内　容		
16	統合失調症③	事例検討①		
17	統合失調症④	事例検討②		
18	気分障害①	疾患の特徴と回復過程		
19	気分障害②	作業療法介入		
20	気分障害③	事例検討		
21	精神作用物質使用による精神・行動の障害①	疾患の特徴と回復過程		
22	精神作用物質使用による精神・行動の障害②	作業療法介入		
23	神経症性障害、ストレス関連障害①	疾患の特徴と回復過程		
24	神経症性障害、ストレス関連障害②	作業療法介入		
25	パーソナリティ障害	疾患の特徴と回復過程 作業療法介入		
26	摂食障害	疾患の特徴と回復過程 作業療法介入		
27	地域移行支援①	病院から地域へ		
28	地域移行支援②	作業療法士の役割		
29	就労支援①	就労の場		
30	就労支援②	作業療法士の役割		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・長崎重信:ゴールド・マスター・テキスト、精神障害作業療法学、改訂2版、メジカルビュー社。 ・新宮尚人:精神機能作業療法学、第3版、医学書院。 <b>【参考図書】</b> ・作業療法士のための非構成的評価トレーニングブック 京極真 誠信書房 ・精神障害と作業療法【新版】 山根寛 三輪書店		期末試験 確認テスト 期末試験	70.0% 15.0% 15.0%	

作成者:

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
作業療法治療学Ⅱ-2(精神) 3年	作業療法科／3年	2021／前期	講義 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択
90分	15回	1単位(30時間)	必須

## 授業の概要

非構成的評価の仕方・記録法について学ぶ

グループワークを通して事例検討を重ねることで、チーム連携への意識の向上、他職種の視点も含めた作業療法士の役割、クリニカル・リーズニングを学ぶ。

【実務経験】病院勤務

## 授業終了時の到達目標

- ・非構成的評価について理解することができる。
- ・非構成的評価による評価結果を4条件に沿って吟味したり記述することができる。
- ・事例検討に向けて、自己学習したり、グループワークに貢献することができる。
- ・評価から治療までの一連の流れを理解し、考えることができる。

回	テーマ	内容
1	構成的評価と非構成的評価	非構成的評価の目的
2	4条件メソッド①	条件1・2
3	4条件メソッド②	条件3・4
4	4条件吟味法①	演習問題
5	4条件吟味法②	演習問題
6	4条件記述法①	演習問題
7	4条件記述法②	演習問題
8	4条件記述法③	演習問題
9	精神科作業療法の実際・視点	作業療法の展開例
10	事例検討①	統合失調症例
11	事例検討②	統合失調症例
12	事例検討③	統合失調症例
13	事例検討④	統合失調症例
14	事例検討⑤	統合失調症例
15	精神科領域の臨床実習の心構え	臨床実習に向けた準備

## 教科書・教材

・ゴールドマスター改訂2版 精神障害作業療法学 長崎重信

## 評価基準

課題・レポート

## 評価率

100.0%

## その他

## 【参考図書】

・作業療法士のための非構成的評価トレーニングブック 京極真 誠信書房

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
作業療法治療学Ⅲ（発達）3年	作業療法科／3年	2021／前期	講義(一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回 数	単 位 数 ( 時 間 数 )	必 須 ・ 選 択
90分	15回	1単位 (30時間)	必 須

## 授 業 の 概 要

発達過程で障害がある子どもたちは多岐にわたる疾患がある。その多岐にわたる疾患への理解を深め、それらの作業療法評価や治療技術を学ぶ。更に時代や環境によって変化をする子どもたちの障害への対応や家族指導、子どもへの具体的な支援方法、作業療法士に求められる役割なども学んでいく。

## 【実務経験】病院勤務

## 授業終了時の到達目標

身体障害、知的障害、発達障害と多岐にわたる発達過程での障害に対する作業療法評価及び治療について理解し、治療計画を立てることが出来る知識を身につける。また、子どもや家族への対人技術、作業療法士に求められる役割を理解する。

回	テ ー マ	内 容
1	発達過程作業療法の基礎	発達過程作業療法の歴史や理念を学ぶこと及び発達に障害がある子どもを評価一治療するための基礎知識を学ぶ。
2	発達過程作業療法実践現場と実践課程	発達に障害がある子どもたちの作業療法の実践現場や実践する過程を学ぶ。
3	発達過程作業療法の地域支援	発達に障害のある子どもたちの地域支援について学ぶ。
4	新生児疾患 (NICU対象児)	NICUでの作業療法対象児についての理解と作業療法の実際を学ぶ。
5	脳性麻痺の作業療法の実際	脳性麻痺に対する作業療法評価一治療、家族指導、地域連携を学ぶ。
6	知的障害に対する作業療法の実際	知的障害の理解と作業療法評価一治療の実際を学ぶ。地域での作業療法についても理解する。
7	進行性筋ジストロフィーに対する作業療法の実際	進行性筋ジストロフィーの疾患の理解と作業療法評価一治療の実践を学ぶ。
8	重症心身障害に対する作業療法の実際	重症心身障害の理解と作業療法評価一治療の実践について学ぶ。
9	重症心身障害に対する作業療法の実際	重症心身障害の理解と作業療法評価一治療の実践について学ぶ。
10	骨関節疾患に対する作業療法の実際	先天性の骨関節疾患の理解と作業療法評価一治療の実践を学ぶ
11	二分脊椎に対する作業療法の実際	二分脊椎の理解と作業療法評価一治療の実践を学ぶ。
12	自閉症スペクトラムに対する作業療法の実際	自閉症スペクトラムの理解と作業療法評価一治療の実践を学ぶ。
13	自閉症スペクトラムに対する作業療法の実際	自閉症スペクトラムの理解と作業療法評価一治療の実践を学ぶ。
14	学習障害に対する作業療法の実際	学習障害の理解と作業療法評価一治療の実践を学ぶ。
15	注意欠如—多動性障害に対する作業療法の実際	注意欠如—多動性障害の理解と作業療法評価一治療の実践を学ぶ

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
福田恵美子編：標準作業療法 発達過程作業療法学 第2版 2014 医学書院	期末試験	100.0%	

作成者：梶 直美

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
作業療法治療学IV(高次)3年	作業療法科／3年	2021／前期	講義 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択
90分	15回	1単位(30時間)	必須

## 授業の概要

ヒトの行動に深くかかわる中枢機能としての高次脳機能について、障害の理解・評価・治療までの実践を学ぶ。

【実務経験】病院勤務

## 授業終了時の到達目標

高次脳機能障害の詳細を理解し、統合と解釈および治療プログラム立案できるようにする

回	テーマ	内 容
1	総論	予定 脳の働き
2	各論①	意識障害 評価を通して意識を捉える
3	各論②	注意障害 注意の4分類
4	各論③	外傷と情動障害
5	各論④	記憶障害 記憶の分類
6	各論⑤	失認
7	各論⑥	評価と治療：事例1(鎌倉先生)
8	各論⑦	評価と治療：事例2(鎌倉先生)
9	各論⑧	失読・失書・失語
10	各論⑨	失行
11	各論⑩	半側無視 評価と生活場面でのUSN
12	各論⑪	着衣障害 文献抄読とグループ発表
13	各論⑫	コミュニケーション障害
14	各論⑬	社会的行動障害
15	まとめ	

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
・鈴木孝治 高次脳機能障害領域の作業療法 中央法規 ・病気がみえるVol.7 第2版 脳・神経 メジカルビュー社	期末テスト	100.0%	

作成者：

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
作業療法治療学V（高齢者） 3年	作業療法科／3年	2021／前期	講義 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択
90分	15回	1単位（30時間）	必須

## 授業の概要

高齢期領域の作業療法に必要な、高齢者の社会的背景や心身機能の特徴を知り、介護予防に資する作業療法支援や、認知症に対する作業療法支援について学ぶ。

【実務経験】施設勤務

## 授業終了時の到達目標

1. 我が国における高齢者の社会的背景と個人の生活歴の分析方法がわかる。
2. 心身機能の老化について説明できる。
3. 高齢者における、生涯発達を前提とした作業療法支援について概要を説明できる。
4. 各種認知症の症状や、作業療法支援を説明できる。
5. 認知機能評価の方法を知り、模擬事例の評価、解釈ができる。
6. 模擬事例について、MTDLPを用いた作業療法計画の立案ができる。

回	テーマ	内容
1	総論：老年期の社会背景と心身機能の特徴、認知症概論	老年期の心身機能の特徴が理解できる
2	老年期の認知症を持つ方に作業療法が何を目指すか	認知症の方の生活を支援する意義がわかる
3	認知症の中核症状とBPSDの種類	認知症の中核症状とBPSDの違いが説明できる
4	認知症の種類	認知症の主な種類と特徴が説明できる それぞれの認知症に対する作業療法支援を説明できる
5	認知症の症状と経過の特徴	認知症の主な種類と特徴が説明できる それぞれの認知症に対する作業療法支援を説明できる
6	認知症の作業療法支援	認知症の主な種類と特徴が説明できる それぞれの認知症に対する作業療法支援を説明できる
7	評価：MTDLP (聞き取りシート、興味関心チェックリスト)	各種評価の使用方法、目的を説明できる
8	各種認知機能評価	各種評価の使用方法、目的を説明できる
9	BPSD評価、POOL活動レベル	各種評価の使用方法、目的を説明できる
10	中核症状	中核症状のBPSD, ADL, IADLへの影響の分析方法がわかる 模擬事例における作業療法プログラムの立案方法ができる
11	BPSD	中核症状のBPSD, ADL, IADLへの影響の分析方法がわかる 模擬事例における作業療法プログラムの立案方法ができる
12	IADL介入と援助	中核症状のBPSD, ADL, IADLへの影響の分析方法がわかる 模擬事例における作業療法プログラムの立案方法ができる
13	ADLへの介入と援助	中核症状のBPSD, ADL, IADLへの影響の分析方法がわかる 模擬事例における作業療法プログラムの立案方法ができる
14	認知症のレクリエーションプログラムの立案	対象者の意味のある活動を評価し、レクリエーションプログラムを計画できる
15	認知症のレクリエーションプログラムの立案	対象者の意味のある活動を評価し、レクリエーションプログラムを計画できる

## 教科書・教材

高齢期における認知症のある人の生活と作業療法 第2版：森口恭子（著）、三輪書店、2017.

## 評価基準

## 評価率

## その他

期末試験  
授業態度

70.0%  
30.0%

作成者：

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 态
作業療法治療学 I -1 (身障) 4年	作業療法科／4年	2021／通年	講義(一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回 数	単位数 (時間数)	必 須 ・ 選 択
90分	30回	2単位 (60時間)	必 須

## 授 業 の 概 要

ケーススタディを通じて、病態、作業療法評価、治療についての基礎知識と実技を習得する。  
【実務経験：病院勤務】

## 授業終了時の到達目標

各疾患に対するリスクをふまえた上で、作業療法の評価から治療の一連の流れが理解できる。  
疾患に応じた適切な評価方法が立案できる。  
各評価結果からICFにまとめることができる。

回	テ ー マ	内 容
1	身体障害に対する基本的知識 ①	各疾患のリスク管理
2	身体障害に対する基本的知識 ②	作業遂行アプローチの実際
3	身体障害に対する基本的知識 ③	モデルケースに対する運動学習
4	身体障害に対する基本的知識 ④	モデルケースに対する知覚再学習
5	身体障害に対する基本的知識 ⑤	モデルケースに対する関節可動域・筋力へのアプローチ
6	脳血管障害に対する作業療法①	モデルケースの紹介
7	脳血管障害に対する作業療法②	作業療法評価 1
8	脳血管障害に対する作業療法③	作業療法評価 2
9	脳血管障害に対する作業療法④	作業療法プログラム
10	脳血管障害に対する作業療法⑤	ケースの振り返り
11	脳血管障害に対する作業療法⑥	再評価
12	脊髄損傷に対する作業療法①	モデルケースの紹介
13	脊髄損傷に対する作業療法②	作業療法評価 1
14	脊髄損傷に対する作業療法③	作業療法評価 2
15	脊髄損傷に対する作業療法④	作業療法プログラム

回	テ　ー　マ	内　容		
16	脊髄損傷に対する作業療法⑤	ケースの振り返り		
17	脊髄損傷に対する作業療法⑥	再評価		
18	骨折に対する作業療法①	モデルケースの紹介		
19	骨折に対する作業療法②	作業療法評価		
20	骨折に対する作業療法③	作業療法プログラム		
21	骨折に対する作業療法④	ケースの振り返り・再評価		
22	変形性関節症に対する作業療法①	モデルケースの紹介		
23	変形性関節症に対する作業療法②	作業療法評価		
24	変形性関節症に対する作業療法③	作業療法プログラム		
25	変形性関節症に対する作業療法④	ケースの振り返り・再評価		
26	末梢神経損傷・切断に対する作業療法①	モデルケースの紹介		
27	末梢神経損傷・切断に対する作業療法②	作業療法評価		
28	末梢神経損傷・切断に対する作業療法③	作業療法プログラム		
29	熱傷に対する作業療法①	モデルケースの紹介		
30	熱傷に対する作業療法②	作業療法評価・作業療法プログラム		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
山口昇、玉垣努：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学（第3版）、医学書院、2005		確認テスト	100.0%	

作成者：

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
作業療法治療学Ⅰ-2（身障）4年	作業療法科／4年	2021／通年	講義（一部、同時双方型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択
90分	30回	2単位（60時間）	必須

## 授業の概要

呼吸器疾患、糖尿病、がん・難病患者における作業療法の治療概念を理解すること  
【実務経験：病院勤務】

## 授業終了時の到達目標

- 各疾患における作業療法実施時のリスクを説明することができる。
- ICFを用いて、各疾患における作業療法の治療方針までの考え方を説明できる。
- 各疾患における作業療法の治療に関する知識を説明できる。
- 各疾患における作業療法の治療変化に対応できる考え方を説明できる。
- 作業療法の治療方針についてチームで討論することができる。

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション 身体機能作業療法の目的と方法、対象	
2	身体所見とリスク管理①	事例を通したリスク管理評価
3	身体所見とリスク管理②	
4	呼吸器疾患(COPD)概要と評価①	事例を通したCOPD評価
5	呼吸器疾患(COPD)概要と評価②	
6	呼吸器疾患の目標とプログラム	目標とプログラム
7	呼吸器疾患の目標とプログラム	
8	糖尿病の概要と評価	事例を通したDM評価
9	糖尿病の概要と評価	
10	糖尿病の目標とプログラム	目標とプログラム
11	糖尿病の目標とプログラム	
12	悪性腫瘍(がん)の概要と分類	事例を通したメタ評価
13	悪性腫瘍(がん)の概要と分類	
14	悪性腫瘍(がん) 目標とプログラム	目標とプログラム
15	悪性腫瘍(がん) 目標とプログラム	

回	テ　ー　マ	内　容
16	パーキンソン病　概要と評価	事例を通したParkinson評価
17	パーキンソン病　概要と評価	
18	パーキンソン病　目標とプログラム	目標とプログラム
19	パーキンソン病　目標とプログラム	
20	脊髄小脳変性症　概要と評価	事例を通した脊髄小脳変性症評価
21	脊髄小脳変性症　概要と評価	
22	脊髄小脳変性症　目標とプログラム	目標とプログラム
23	脊髄小脳変性症　目標とプログラム	
24	筋萎縮性側索硬化症　概要と評価	事例を通した筋萎縮性側索硬化症評価
25	筋萎縮性側索硬化症　概要と評価	
26	筋萎縮性側索硬化症　目標とプログラム	目標とプログラム
27	筋萎縮性側索硬化症　目標とプログラム	
28	ケーススタディ	応用事例を通した一連の流れ
29	ケーススタディ	
30	ケーススタディ	
教科書・教材		評価基準
標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学第3版 編集 山口昇 玉垣努		確認テスト
		評価率
		100.0%
		その他

作成者:梶直美

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
作業療法治療学Ⅱ-1 (精神) 4年	作業療法科／4年	2021／前期	講義(一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回 数	単位数 (時間数)	必 須・選 択
90分	30回	2単位 (60時間)	必 須

## 授 業 の 概 要

退院後の生活を目指し、ICF的視点で評価し、治療目標と治療プログラムが立てられるように学習する

## 【実務経験】病院勤務

## 授業終了時の到達目標

成果のあがる作業療法を実践できるようにする

回	テ ー マ	内 容
1	総論	日程 作業療法を取り巻く現状
2	ICF	復習テスト ICF評価
3	ICF的作業分析①	見立ての3要素「認知」「行動」「感情」 ICF的作業分析①統合失調症
4	ICF的作業分析②	ICF的作業分析②感情障害③神経症④器質性⑤依存症
5	身体合併症①	身体評価+精神評価「認知症+多発性脳梗塞」
6	身体合併症②	身体機能治療プログラム 精神機能治療プログラム
7	身体合併症③	身体合併症 事例 横紋筋融解症
8	統合失調症①	統合失調症の作業療法
9	認知行動療法	認知行動の変容に向けた支援
10	認知行動療法	認知行動療法 事例 持続性感情障害
11	気分（感情）障害①	急性期のOT実践過程 持続性気分障害①
12	持続性気分障害②	中心課題の関連図 持続性気分障害①
13	統合失調症②	早期作業療法 生活期作業療法
14	集団療法	集団評価と集団療法 グループホーム
15	統合失調症③	回復期前期

回	テ　ー　マ	内　　容		
16	統合失調症④	回復期後期		
17	気分（感情）障害②	事例		
18	気分（感情）障害③	事例		
19	神経症・ストレス関連障害①	事例		
20	生理的障害・身体的要因関連	事例		
21	パーソナリティ障害	事例		
22	知的障害	事例		
23	特異的発達障害、広汎性発達障害	事例		
24	注意欠陥・多動性障害、学習障害	事例		
25	てんかん	事例		
26	認知症	事例		
27	介護保険制度	地域包括支援センター		
28	治療援助の場	精神科デイケア		
29	障害者総合支援法	制度・就労など		
30	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
①長崎重信監修 ゴールドマスター精神機能作業療法学改訂第2版 メジカルビュー社 ②太田保之・上野武治編学生のための精神医学第3版 医歯薬出版		期末試験	100.0%	

作成者:

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
作業療法治療学Ⅱ-2(精神) 4年	作業療法科／4年	2021／後期	講義 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択
90分	30回	2単位(60時間)	必須

## 授業の概要

精神障害者の症状や回復状態、ライフステージに沿った作業療法の視点や役割について学習する。

国家試験で要される精神医学を含めた精神障害作業療法の知識を整理する。

【実務経験】病院勤務

## 授業終了時の到達目標

- 精神科における作業療法の視点や役割、目的について理解し、説明できる。
- 精神障害領域の作業療法の流れについて理解し、説明できる。

回	テーマ	内容
1	精神障害総論①	精神障害に対する作業療法の視点
2	精神障害総論②	精神領域で用いられる評価尺度
3	集団①	集団精神療法
4	集団②	集団作業療法
5	急性期作業療法	急性期の作業療法
6	統合失調症①	症状や行動特徴
7	統合失調症②	回復過程に応じた作業療法
8	統合失調症③	事例
9	気分障害①	症状や行動特徴
10	気分障害②	回復過程に応じた作業療法
11	気分障害③	事例
12	神経症、ストレス関連障害①	各疾患の特徴
13	神経症、ストレス関連障害②	各疾患に対する作業療法
14	神経症、ストレス関連障害③	事例
15	摂食障害①	疾患の特徴

回	テ　ー　マ	内　　容		
16	摂食障害②	事例		
17	パーソナリティ障害①	疾患の特徴		
18	パーソナリティ障害②	各疾患に対する作業療法		
19	パーソナリティ障害③	事例		
20	認知症①	疾患の特徴		
21	認知症②	各疾患に対する作業療法		
22	認知症③	事例		
23	てんかん①	疾患の特徴		
24	てんかん②	事例		
25	アルコール依存症①	疾患の特徴		
26	アルコール依存症②	各疾患に対する作業療法		
27	アルコール依存症③	事例		
28	発達障害①	疾患の特徴		
29	発達障害②	各疾患に対する作業療法		
30	発達障害③	事例		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・長崎重信：作業療法ゴールドマスター・ テキスト 精神障害作業療法学 改定第2版、2015. ・新宮尚人：精神機能作業療法学 第3版、2020.		期末試験	100.0%	・必要に応じて、 国家試験対策本を 持参してください。

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法治療学Ⅲ(発達) 4年	作業療法科/4年	2021/通年	講義(一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択
90分	15回	1単位(30時間)	必須

## 授業の概要

3年次には発達過程で障害がある子どもたちの多岐にわたる疾患の基礎知識について理解を深めた。4年次ではさらに応用力を身につけるべく実例を通して、子どもたちの障害への対応や家族指導、子どもへの具体的な支援方法、作業療法士に求められる役割について学んでいく。

## 授業終了時の到達目標

身体障害、知的障害、発達障害と多岐にわたる発達過程での障害に対する作業療法評価及び治療について理解し、治療計画が立てられることができる知識を身につける。また、子どもや家族への対人技術、作業療法士に求められる役割を理解する。

回	テーマ	内容
1	発達過程作業療法の基礎	発達過程作業療法の歴史や理念を学ぶこと及び発達に障害がある子どもを評価、治療するための基礎知識を学ぶ
2	発達過程作業療法実践現場と実践課程	発達に障害がある子どもたちの作業療法の実践現場や実践する過程を学ぶ
3	発達過程作業療法の地域支援	発達に障害がある子どもたちの地域支援について学ぶ
4	新生児疾患(NICU対象児)	NICUでの作業療法対象児についての理解と作業療法の実際を学ぶ
5	脳性麻痺の作業療法の実際	脳性麻痺に対する作業療法評価、治療、家族指導、地域連携を学ぶ
6	知的障害に対する作業療法の実際	知的障害の理解と作業療法評価、治療、家族指導、地域連携を学ぶ
7	進行性筋ジストロフィーに対する作業療法の実際	進行性筋ジストロフィーの疾患の理解と作業療法評価、治療の実践を学ぶ
8	重症心身障害に対する作業療法の実際	重症心身障害の理解と作業療法評価、治療の実践を学ぶ
9	重症心身障害に対する作業療法の実際	重症心身障害の理解と作業療法評価、治療の実践を学ぶ
10	骨関節疾患に対する作業療法の実際	先天性の骨関節疾患の理解と作業療法評価、治療の実践を学ぶ
11	二分脊椎に対する作業療法の実際	二分脊椎の理解と作業療法評価、治療の実践を学ぶ
12	自閉スペクトラム症に対する作業療法の実際	自閉スペクトラム症の理解と作業療法評価、治療の実践を学ぶ
13	自閉スペクトラム症に対する作業療法の実際	自閉スペクトラム症の理解と作業療法評価、治療の実践
14	学習障害に対する作業療法の実際	学習障害の理解と作業療法評価、治療の実践を学ぶ
15	注意欠陥多動性障害に対する作業療法の実際	注意欠陥多動性障害の理解と作業療法評価、治療の実践を学ぶ

## 教科書・教材

## 評価基準

## 評価率

## その他

福田恵美子編：標準作業療法学 発達過程  
作業療法学 第2版 2014 医学書院

期末試験

100.0%

作成者：

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
作業療法治療学IV(高次)4年	作業療法科／4年	2021／前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択
90分	15回	1単位(30時間)	必須

## 授業の概要

高次脳機能障害評価⇒治療プログラム立案⇒治療・支援実施⇒最終評価の流れを理解する  
【実務経験：病院勤務】

## 授業終了時の到達目標

生活に密着した治療プログラムを作成することができる

回	テーマ	内 容
1	高次脳機能障害復習	分類及び症状と脳局在
2	記憶障害・検査法の復習	三宅式記憶力検査/Reyの複雑图形検査/ペントン視覚記憶検査①記憶と想起②エピソード記憶③展望記憶 リバーミード/ウェクスラー記憶検査
3	記憶障害・治療的訓練	単純反復訓練の効果、記憶スパンの拡張訓練、記憶術の適用、エラーレス学習、外的記憶補助具の利用訓練、スキル学習
4	注意障害・検査法の復習	①CAT②TMT③かな拾いテスト④転換性注意など⑤持続性注意など
5	注意障害・治療的訓練	注意の全般的訓練、注意の要素の特異的訓練、目標志向型注意訓練
6	半側空間無視	①SISASの視空間認知検査②お金のチップを用いた試験③文字チップを用いた読みの訓練④BIT⇒左(右)を見る事の促し、視覚的走査の訓練、視覚的手掛かりを与えることの意味、全般性注意の促進、左手の使用、休性感覚の利用、单眼遮断および半視野遮蔽、プリズム眼鏡
7	遂行機能障害	①BADS②ハノイの塔③スケジュールノート④発散的思考⑤収束的思考⑥計画的・総合的思考⑦習慣的反応の抑制⑧stroop test⇒
8	視覚性認知の障害	単純反復訓練の効果、フラッシュカード訓練及びMOR法、要素的視覚障害への対処、視覚的特徴への注意の喚起、てがかりを使った認知学習、代償的方法の導入
9	空間関係の認知と操作の障害	視空間知覚の自然回復、視空間性定位のための練習、地誌的障害(道順障害)への対処、構成障害が生み出す問題への対処、心像の問題、関係を表す言葉の理解の障害への対処
10	読み・書字・計算の障害	読字障害の治療的訓練、書字障害の治療的訓練、数処理計算障害の治療的訓練、計量器使用の障害の治療的訓練
11	失行症	治療的訓練の効果の検討、指示様式の違いによる効果の検討、事例研究と事例報告
12	失語症	①読解力の訓練②自書字の訓練③コミュニケーション能力改善の訓練⇒実用的コミュニケーション回復のための援助、心理社会面の援助
13	身体意識の障害	非半身性身体意識障害の場合、半身性身体意識障害の場合
14	障害の無自覚	①一般的な知識の獲得②自分の高次脳機能障害への自覚③影響の自覚
15	地域・就労支援	回復期リハ病棟チームアプローチ・薬物療法・地域包括支援・一般就労と就労移行支援及び就労継続支援

## 教科書・教材

## 評価基準

## 評価率

## その他

高次脳機能障害学 第2版 石合純夫 医歯薬出版  
神経内科学 第4版 川平和美 医学書院  
病気がみえる vol.17 脳・神経 医療情報科学研究所

授業態度  
期末試験

10.0%  
90.0%

作成者：

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
作業療法治療学V（高齢者） 4年	作業療法科／4年	2021／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択
90分	15回	1単位（30時間）	必須

## 授業の概要

3年生で学んだ作業療法治療学Vの知識を踏まえ、モデルケースを通して高齢期領域の作業療法支援について学ぶ。

【実務経験】病院勤務

## 授業終了時の到達目標

1. 高齢者における作業療法支援について概要を説明できる。
2. 模擬事例に対して評価、解釈ができる。

回	テーマ	内容
1	総論	高齢者の作業療法支援について
2	模擬事例演習1（アルツハイマー型認知症）	必要な評価のリストアップ
3	模擬事例演習1（アルツハイマー型認知症）	評価の実施
4	模擬事例演習1（アルツハイマー型認知症）	解釈と統合
5	模擬事例演習2（脳血管型認知症）	必要な評価のリストアップ
6	模擬事例演習2（脳血管型認知症）	評価の実施
7	模擬事例演習2（脳血管型認知症）	解釈と統合
8	模擬事例演習3（レビー小体型認知症）	必要な評価のリストアップ
9	模擬事例演習3（レビー小体型認知症）	評価の実施
10	模擬事例演習3（レビー小体型認知症）	解釈と統合
11	認知症に対する家族支援1	家族背景（家族関係、経済状況）
12	認知症に対する家族支援2	ICFとチームアプローチを中心に
13	認知症に対する環境支援1	代償的戦略
14	認知症に対する環境支援2	潜在能力を踏まえた支援方法
15	各施設の役割	急性期、回復期、生活期
16		

## 教科書・教材

高齢期における認知症のある人の生活と作業療法 第2版：森口恭子（著）、三輪書店、2017.

## 評価基準

確認テスト

## 評価率

100.0%

## その他

作成者:

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
福祉住環境論		作業療法科／2年	2021／後期	講義(一部、同時双方向型遠隔授業)
90分	15回	1単位 (30時間)	必須	梶 直美 (実務経験あり)

## 授 業 の 概 要

福祉住環境コーディネーター検定試験2級合格レベルまでの知識を身に着ける【実務経験】病院勤務

## 授業終了時の到達目標

福祉住環境コーディネーター検定試験2級合格

回	テ　ー　マ	内　容
1	第1章	確認問題とテキスト確認
2	第1章	確認問題とテキスト確認
3	第2章	確認問題とテキスト確認
4	第2章	確認問題とテキスト確認
5	第3章	確認問題とテキスト確認
6	第3章	確認問題とテキスト確認
7	第4章	確認問題とテキスト確認
8	第4章	確認問題とテキスト確認
9	第5章	確認問題とテキスト確認
10	第5章	確認問題とテキスト確認
11	第6章	確認問題とテキスト確認
12	第6章	確認問題とテキスト確認
13	過去問	試験・解答・解説
14	過去問	試験・解答・解説
15	過去問	試験・解答・解説

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
東京商工会議所編 福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト 福祉住環境コーディネーター2級短期合格テキスト	期末試験	100.0%	検定試験に不合格の場合は、レポート課題

作成者：

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
地域作業療法論	作業療法科／4年	2021／通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択
90分	15回	2単位(30時間)	必須

## 授業の概要

本講義では、地域リハビリテーションの目標と地域での役割を理解し、地域在住障がい者の生活特性と問題点を整理することで地域作業療法の指導・援助・技術が説明できるようになることを目指す。

【実務経験】施設勤務

## 授業終了時の到達目標

1. 地域における作業療法支援について概要を説明できる。
2. 模擬事例に対して評価、解釈ができる。

回	テーマ	内 容
1	総論	
2	模擬事例演習1(身体障害)	必要な評価のリストアップ
3	模擬事例演習1(身体障害)	評価の実施
4	模擬事例演習1(身体障害)	解釈と統合
5	模擬事例演習2(内部障害)	必要な評価のリストアップ
6	模擬事例演習2(内部障害)	評価の実施
7	模擬事例演習2(内部障害)	解釈と統合
8	模擬事例演習3(精神領域)	必要な評価のリストアップ
9	模擬事例演習3(精神領域)	評価の実施
10	模擬事例演習3(精神領域)	解釈と統合
11	模擬事例演習4(発達領域)	必要な評価のリストアップ
12	模擬事例演習4(発達領域)	評価の実施
13	模擬事例演習4(発達領域)	解釈と統合
14	模擬事例演習5(運動支援)	必要な評価のリストアップ
15	模擬事例演習5(運動支援)	評価の実施、解釈と統合

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	課題・レポート 授業態度	70.0% 30.0%	

作成者：

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床見学実習Ⅰ	作業療法科／1年	2021／後期	実習(一部学内実習)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択
		1単位(40時間)	必須

## 授業の概要

病院にて、見学実習を3日間行い、その前後に学校で2日分の課題を行う。

①作業療法士になることへの自己動機を確認する。②これまで学習したことの意義を理解し、今後の学習意欲の向上を行う。③社会人、医療従事者としての責任的行動の遂行を心掛ける。④病院における作業療法部門の位置づけを理解する。⑤作業療法士の業務の内容を把握する。⑥患者や利用者とのとの関わり方についてイメージを持つ。【実務経験】病院勤務

## 授業終了時の到達目標

①病院のスケジュールに従って行動することができる。学生は施設の規則を遵守し、職員・患者に対する礼儀をわきまえ、見学担当者の指示に従うことができる。②職員・患者に対して社会人として相応しいコミュニケーション(適切な挨拶・言葉遣い等)がとれる。③学生間や患者との不用意な会話は慎むことができる。また、患者について知り得た情報の守秘義務を守ることができる。

回	テーマ	内容
1		
2		
3		令和2年3月9日～3月24日の間に、1週間(40時間)実施。
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	課題レポート、デイリー ノートの提出、出欠、実習 態度、等により評定。	100.0%	

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床見学実習Ⅱ	作業療法科／2年	2021／前期	実習（一部学内実習）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択
		1単位（40時間）	必須

#### 授業の概要

臨床実習として現場に赴き、臨床場面の実態を知り、作業療法士の仕事内容を理解する。  
施設・病院等で実習を行う。【実務経験】病院勤務

#### 授業終了時の到達目標

- ・作業療法の一連の流れを見学し、作業療法士の業務内容の理解を深める。
- ・対象者のリスク管理を守れる
- ・指導者と対象者と適切な関係がとれる。

回	テーマ	内 容
1	令和3年8月30日（月）～9月10日（金）病院・施設での実習	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	実習・実技評価 授業態度 課題・レポート	50.0% 30.0% 20.0%	180時間の実習時間 を設ける（4単位）

作成者：

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
評価学実習ゼミ	作業療法科／2年	2021／後期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択
90分	15回	1単位 (30時間)	必須 梶・丁子・白瀬・中川・木下 (実務経験有)

## 授業の概要

評価実習に必要な評価方法の復習【実務経験】病院勤務

## 授業終了時の到達目標

評価実習に必要な評価方法を身に着ける

回	テーマ	内 容
1	身体機能評価実技試験	ROMテスト
2	身体機能評価実技試験	MMT
3	身体機能評価実技試験	STEF
4	身体機能評価実技試験	SIAS
5	身体機能評価実技試験	Brunstrom Stage Test
6	身体機能評価実技試験	感覚検査
7	身体機能評価実技試験	バランス・協調性・失調症検査
8	ADL検査	ADL
9	認知機能検査	HDSR, MMSE
10	高次脳機能検査	記憶検査
11	高次脳機能検査	失行失認検査
12	高次脳機能検査	BIT, BADS, リバーミード行動記憶検査
13	精神機能評価	精神機能評価
14	精神機能評価	精神機能評価
15	発達機能評価	発達機能評価
教科書・教材		評価基準
作業療法評価学 医学書院		評価率
		その他
		100.0%

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
評価実習Ⅰ	作業療法科／2年	2021／後期	実習(一部学内実習)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択
		2単位(80時間)	必須

#### 授業の概要

臨床実習として現場に赴き、臨床場面の実態を知り評価を体験することにより、評価測定の仕方や意味を理解する。

施設・病院等で評価実習を行う。【実務経験】病院勤務

#### 授業終了時の到達目標

- ・作業療法の一連の流れと評価実技を経験し、作業療法士としての仕事内容の理解を深める。
- ・対象者のリスク管理を守れる
- ・指導者と対象者と適切な関係がとれる。

回	テーマ	内容
1	令和4年3月14日(月)～3月25日 (金) 病院・施設での実習	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	実習・実技評価 授業態度 課題・レポート	50.0% 30.0% 20.0%	180時間の実習時間 を設ける(4単位)

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床実習 I		作業療法科／3年	2021／後期	実習(一部、学内実習)
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
		4単位 (180時間)	必須	白瀬・木下・丁子・中川・梶 (実務経験有)

#### 授業の概要

臨床実習として現場に赴き、臨床場面の実態を知り、専門家としての心構えと基本的なスキルの獲得を目指す。

施設・診療所・病院等で実習を行う。【実務経験】病院勤務

#### 授業終了時の到達目標

- ・作業療法の一連の流れのうち、評価から治療計画の立案までを経験し、理解を深める。
- ・対象者のリスク管理を守れる
- ・指導者と対象者と適切な関係がとれる。

回	テーマ	内容
1	令和3年10月18日（月）～11月19日（金）病院・施設での実習	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	実習・実技評価 授業態度 課題・レポート	50.0% 30.0% 20.0%	180時間の実習時間 を設ける（4単位）

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床実習Ⅱ	作業療法科／3年	2021／後期	実習（一部学内実習）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択
		7単位（315時間）	必須 担当教員 白瀬・木下・丁子・中川・梶 (実務経験有)

#### 授業の概要

臨床実習Ⅰと同様に、臨床場面の実態を知り、専門家としての心構えと基本的なスキルの獲得を目指す。

また、作業療法の評価・治療までの一連の流れを経験できる。

施設・診療所・病院等で実習を行う。【実務経験】病院勤務

#### 授業終了時の到達目標

- ・作業療法の一連の流れのうち、評価から治療の実施までを経験し、理解を深める。
- ・対象者のリスク管理を守れる。
- ・指導者と対象者と適切な関係がとれる。

回	テーマ	内容
1	令和4年1月11日（火）～3月7日（月）まで病院・施設実習	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	実習・実技評価 授業態度 課題・レポート	50.0% 30.0% 20.0%	315時間の実習時間 を設ける（7単位）

作成者：

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床実習Ⅲ	作業療法科／4年	2021／前期	実習 (一部、学内実習)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択
		7単位(315時間)	必須

## 授業の概要

臨床実習Ⅰ・Ⅱの成果を踏まえ、作業療法の評価から治療計画の立案、治療計画の実施、再評価の一連の流れを経験することで、知識と技術を習得することを目指す。

【実務経験】病院勤務

## 授業終了時の到達目標

- ・作業療法の一連の流れのうち、評価から再評価までを経験し、理解を深める。
- ・対象者のリスク管理を守れる。
- ・指導者や対象者と適切な関係をとれる。

回	テーマ	内容
1	令和3年5月10日～7月2日 令和3年7月5日～8月31日	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
158		

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	実習・実技評価 授業態度 課題・レポート	50.0% 30.0% 20.0%	315時間の実習時間 を設ける(7単位)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 态
基礎作業療法Ⅱ（応用）	作業療法科／3年	2021／後期	講義 (一部、双方向型遠隔授業)
授 業 時 間	回 数	単 位 数 ( 時 間 数 )	必 須 ・ 選 択
90分	30回	2単位 (60時間)	必 須

#### 授 業 の 概 要

本講義ではレクリエーション活動の社会的意義、レクリエーションの援助者としての役割について理解させる。また、レクリエーションサービスのポイントを理解し、レクリエーション計画の作成能力および実践援助能力の習得を目指す。【実務経験】病院勤務

#### 授業終了時の到達目標

生活行為向上マネジメント(MTDL)の概要が理解できる。

MTDLの枠組みからレクリエーションと余暇活動、社会参加との関連が理解できる。

回	テ 一 マ	内 容
1	MTDLの概要1	作業の連続性
2	MTDLの概要2	高齢者の実態
3	MTDLの概要3	生活行為障害とは
4	MTDLの使い方1	評価
5	MTDLの使い方2	事例紹介
6	MTDLの使い方3	模擬事例に対する評価
7	MTDLの使い方4	評価使用における注意事項
8	レクリエーション	目的・意義
9	レクリエーションの種類	レクリエーションの分類
10	MTDLと余暇活動	MTDLと余暇活動の関連について
11	MTDLと社会参加	MTDLと社会参加の関連について
12	ICFとMTDL1	ICFの復習
13	ICFとMTDL2	ICFとMTDLの違い・類似点
14	ICFとMTDL3	事例紹介1
15	ICFとMTDL4	事例紹介2

回	テ　ー　マ	内　容		
16	MTDLPの活用1	事例検討1		
17	MTDLPの活用2	事例検討2		
18	MTDLPの活用3	事例検討3		
19	MTDLPの活用4	事例検討4		
20	MTDLPの活用5	事例検討5		
21	MTDLPの効果判定1	エビデンスの基礎		
22	MTDLPの効果判定2	現在までのMTDLPの成果		
23	作業療法と文化1	東洋文化の特徴		
24	作業療法と文化2	西洋文化の特徴		
25	クライエント中心の実践1	クライエント中心とは		
26	クライエント中心の実践2	関係モデル		
27	レクリエーションの応用1	模擬事例に対しての治療計画の立案		
28	レクリエーションの応用2	模擬事例に対しての治療の実施		
29	レクリエーションの応用3	模擬事例に対しての治療効果判定		
30	まとめ、振り返り	復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
作業療法マニュアル66 生活行為向上マネジメント改訂第3版 日本作業療法士協会		課題・レポート	100.0%	

作成者：

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
セミナー	作業療法科／4年	2021／通年	講義(一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択
90分	45回	3単位 (90時間)	必須

## 授業の概要

本授業では、これまでに学んだ全分野に関して、講義と演習、確認テストを通じて、基礎的知識の確認を行う。【実務経験：病院勤務】

## 授業終了時の到達目標

作業療法を実施する上での基礎知識（解剖・運動学・生理学など）と技術の確認を行い、基礎的臨床能力を身につける。

回	テーマ	内 容
1	解剖学①	総論
2	解剖学②	細胞と組織
3	解剖学③	骨
4	解剖学④	関節・筋（上肢）
5	解剖学⑤	関節・筋（顔面・体幹）
6	解剖学⑥	関節・筋（下肢）
7	解剖学⑦	神経系
8	解剖学⑧	脈管系
9	解剖学⑨	触診（上肢・体幹）
10	解剖学⑩	触診（下肢）
11	運動学①	力の基礎
12	運動学②	運動器の構造
13	運動学③	運動とエネルギー
14	運動学④	四肢の運動
15	運動学⑤	体幹の運動

回	テ　ー　マ	内　　容
16	運動学⑥	下肢の運動
17	運動学⑦	姿勢
18	運動学⑧	歩行
19	運動学⑨	運動学習
20	運動学⑩	運動処方
21	生理学①	総論
22	生理学②	細胞生理
23	生理学③	神経
24	生理学④	感覚
25	生理学⑤	発声・構音・音声
26	生理学⑥	自律神経
27	生理学⑦	呼吸
28	生理学⑧	循環
29	生理学⑨	血液・免疫
30	生理学⑩	消化
31	人間発達学①	発達段階（0から6歳）
32	人間発達学②	思春期と高齢期
33	小児科学①	新生児と未熟児
34	小児科学②	免疫・アレルギー疾患
35	病理学①	炎症・腫瘍

回	テ　ー　マ	内　　容		
36	病理学②	循環障害		
37	整形外科学①	外傷疾患		
38	整形外科学②	変形性疾患		
39	臨床心理学①	こころの変化		
40	臨床心理学②	カウンセリング技法		
41	内科学①	内分泌系		
42	内科学②	腎・泌尿器系		
43	リハビリテーション概論①	歴史		
44	リハビリテーション概論②	法・制度		
45	まとめ			
46	試験	確認テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		確認テスト	100.0%	

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
総合演習Ⅲ	作業療法科／3年	2021／通年	演習 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択
90分	30回	2単位（60時間）	必須

## 授業の概要

臨床における評価(情報収集、検査、測定)、治療の一連のプロセスを理解すること

高次脳機能の各検査の特性、評価方法、解釈方法を理解すること

【実務経験：病院勤務】

## 授業終了時の到達目標

1. 高次脳機能障害の概念、各種の検査を実施することができる
2. 医療面接の概念を説明することができる
3. 情報収集に必要な項目を列挙し、適切な内容を収集することができる
4. 基礎情報、医学的情報、社会的情報を元に評価計画を立案することができる
5. 評価計画を元に、評価を実施することができる

回	テーマ	内 容
1	総論	オリエンテーション 高次脳機能障害とは
2	簡易知的機能検査(HDS-R、MMSE)	
3	簡易知的機能検査(HDS-R、MMSE)	
4	注意機能検査(TMT、かな拾い、数唱)	
5	注意機能検査(TMT、かな拾い、数唱)	
6	記憶機能検査(東大脳研式記録力検査、レイの複雑図形模写、RBMT、WMS-R)	
7	記憶機能検査(東大脳研式記録力検査、レイの複雑図形模写、RBMT、WMS-R)	
8	頭葉機能検査(WCST、FAB、MST、BADS)	
9	前頭葉機能検査(WCST、FAB、MST、BADS)	
10	高次脳機能検査 まとめ	
11	評価の基礎①	
12	評価の基礎②	
13	医療面接と情報収集①	
14	医療面接と情報収集②	
15	医療面接と情報収集③	

回	テ　ー　マ	内　　容		
16	医療面接と情報収集④			
17	ケーススタディ①			
18	ケーススタディ①			
19	ケーススタディ②			
20	ケーススタディ②			
21	ケーススタディ③			
22	ケーススタディ③			
23	ケーススタディ④			
24	ケーススタディ④			
25	ケーススタディ⑤			
26	ケーススタディ⑤			
27	ケーススタディ⑥			
28	ケーススタディ⑥			
29	ケーススタディ⑦			
30	ケーススタディ⑦			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 第3版 医学書院 鈴木孝治 高次脳機能障害領域の作業療法 中央法規		期末試験	50.0% 50.0%	